

# 平成14年度 校内共同研究計画

仙台市立黒松小学校

## 1. 研究テーマ

**「一人一人がわかる喜びを味わい，自ら意欲を持って学ぶ児童の育成」**

～算数の基礎・基本を確実に身につけさせるための指導の工夫を通して～

## 2. 主題設定の理由

### 本校教育目標から

本校においては、「豊かな情操と健康な体及び創造的な知性を養い，生きる力を備えた児童の育成」を教育目標にかかげ、「基礎的・基本的事項の確実な習得」，「黒松小ならではの特色ある教育活動」，「総合的な学習の時間」の充実等を重点努力目標とし，その具現化に努めている。

特に教師の最大の責務である「児童の学力保証」を最重点課題とし，教育課程全体の見直しを行ってきた。

13年度には全校でスキルタイムを設定し，計算ドリルやまず計算などの反復練習を通して基礎的な計算力を育成してきた。また，個に応じたきめ細かな指導を進めるための手立てとして，3年生以上ではグループ別指導や個別指導などの学習形態を工夫し，一人一人の学びを保証するとともに基礎的・基本的な内容を確実に習得させるための授業改善を行ってきた。さらに，新観点別到達度学力検査（国語・算数）を全校で実施し，児童の学習状況の把握や個に応じた評価のあり方についても模索してきた。

### 児童の実態から

基本的な生活習慣や学習の習慣が十分身に付いていない児童や基礎学力が低下している児童が各学年に少なからず見られる。特に基礎学力に関しては，個人差が大きく，学年が上がるにつれて上位群と下位群との差が広がる傾向が見られる。

13年春に実施した算数の新観点別到達度学力検査では，2・3年生までは全国通過率を上まわっているものの，4年生を境に通過率が下がりはじめ高学年ではその低下がより大きくなっているという結果が出ている。また，低学年で学習した加減乗算などの基礎的・基本的な計算力が十分身につかないまま中・高学年に上がってくる児童も多く，日常の指導の中では，「新しい単元の学習がスムーズに進められない」といった場面も見られ，これまでの一斉指導の学習形態では，どの子にも着実に力つけさせることが難しいのが現状である。

以上のような実態から，算数の基礎・基本を確実に身につけさせるために，個に応じた指導を推進し，よりきめ細かに学習させていく必要がある。そこで，今年度はさらに児童一人一人に「わかる喜び」を味わわせ，児童自らが主体的に学習に取り組む算数指導のあり方を探っていきたいと考え，本主題を設定した。

## 3. 研究目標

- ・スキルタイム、TT や習熟度別グループ学習等を通して、児童一人一人に基礎・基本を確実に習得させるための指導のあり方を追究する。

## 4. 研究仮説

児童一人一人の学習の習得状況を的確に捉え，グループ（個）に応じた指導法を工夫していけば，基礎・基本の力を確実に身につけ、成就感や満足感を味わい主体的に学習に取り組む児童の育成が図られるであろう。

## 5. 平成13年度の取り組み

### 【基本方針】

- (1) 年間40時間(週1時間)のスキルタイムを設定, 全校体制で取り組む
  - ・国語: 読む・書く・話す聞くのスキル, 算数: 基礎的な計算のスキル
- (2) 学習状況の把握: 新観点別到達度学力検査 教研式新 CRT- の実施
  - ・6月(算数: 初年度のみ), 2月(国語, 算数)
- (3) 少人数グループ指導(3年生以上で実施)
  - ・3人の担任に1人の加配教師を加え, 3学級を4つの少人数グループに分け, 個に応じた指導を工夫することで, 基礎基本の定着を図る。
  - ・グループは固定化せず, 単元ごとにレディネステストを実施し, その都度グループを再編成する。
- (4) 個別指導の時間の確保(火曜日の放課後)
- (5) 個に応じた評価の工夫
  - ・算数のあゆみ作成

### 【指導の方向性を修正】

先進校の研究ならびに視察(兵庫県朝来郡朝来町立山口小学校)をきっかけに本校の算数のスキルタイムを見直し, 11月より全校でまず計算に取り組む。(詳細は「先進校視察研修報告書」参照)

- ・朝の打ち合わせをなくし, (打ち合わせは火曜日の夕方にした) 始業前の15分間を活用して全校一斉にまず計算に取り組む。
- ・2週間データを継続して取り, 児童の変容, まず計算の効果を数値化しその成果を見る。
- ・次年度への提案

### <成果>

- (1) 少人数指導
  - ・指導時間や内容を調整し, 個に応じた指導を進めたことにより, 学習への意欲を高めることができた。
  - ・下位群のグループを可能な限り少人数化し, きめ細かな指導を行ったことで, 学習の定着率を高めることができた。
- (2) まず計算
  - ・ほとんどの児童が, 計算の速度・正答率をアップさせている。自己ベストをめざして意欲的に取り組む姿が見られた。

「100まず計算」実施開始日と2週間後の比較

学年	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	49まず計算	100まず計算										
実施日	11/27	12/13	11/27	12/13	11/27	12/13	11/27	12/13	11/27	12/13	11/27	12/13
～2分未満	0	8	0	1	0	5	1	16	2	20	0	0
2～5分〃	36	75	17	46	51	77	74	87	60	88	0	10
5～10分〃	62	39	70	42	34	4	30	8	46	3	6	57
10～15分〃	21	2	16	7	2	0	8	0			18	19
15分以上	7	2	3	3			2	0			64	1
正答率	92.0	96.0	98.8	99.1	99.1	99.5	98.4	99.0	98.4	99.7	93.9	98.3

(3) 個に応じた評価の工夫

- 各学年ごと単元の到達目標や達成状況を知らせる「算数のあゆみ」を作成し、きめ細かな評価を行った。その結果、一人一人の学習状況や達成状況を児童や保護者に対し具体的に提示することが可能となり、児童の学習意欲を喚起したり、課題意識を持たせたりすることができた。

算数のあゆみ

【第1学期】

単元名	単元の目標	A	B	C
1. 分数のかけ算とわり算	分数×整数、分数÷整数の意味と計算のしかたが分かり計算できる。		○	
2. 分数のかけ算	分数×分数のかけ算の意味と計算のしかたが分かり計算できる。	○		
3. 分数のわり算	分数÷分数のわり算の意味と計算のしかたが分かり計算できる。		○	
4. 比と比の値	2つの数量の関係を表すのに、比や比の値を用いることが分かる。 比を使って問題を解くことができる。	○		
5. 拡大図と縮図	拡大図、縮図の意味や性質が分かり、拡大図や縮図をかくことができる。		○	
(児童の反省) グループ別になってからわかりやすくなった。人数が少ないので、聞きやすかった。 (保護者から) グループ別学習について、本人にとってはとてもよかったです。少人数のおかげで先生の話をしっかり理解でき、本人のペースに合った進み具合でした。				保護者印

【算数のあゆみ】の長方

- 単元ごとの3段階評価になっています。
- A-「よくできた」 B-「できた」 C-「がんばろう」を表し、評価該当項目に○印をつけています。
- 「児童の反省」には児童自身が、「保護者から」の欄には保護者の方が記入して下さい。また、保護者印を忘れず押してください。

<課題>

(1) 少人数グループ指導について

児童の自己評価を加味したグループ選択

- グループ内の学力差が大きくなるケースが見られた。
- グループの人数にかたよりがでた。
- 基礎学力の低いグループほど指導に時間がかかり、進度調整が難しくなる。

少人数担当が、4学年にわたり1人で指導するのは負担が大きい。  
所属グループの変更

- 単元ごとに評価テスト、レディネステストを実施しグループを編成するための時間がかかり算数指導そのものの時間が少なくなってしまう。

(2) まず計算について

- 始業前の時間を活用して行ってきたが、まず計算以外の学級の活動ができなくなる。

6. 14年度の方向性・努力事項

(1) 教育課程の再編

- 行事の精選，カリキュラム，週時程表の見直し（14年度教育計画参照）

(2) スキルタイムの充実

- まず計算の反復訓練による計算力の向上

1～2年：週2回，朝の10分間の時間を設定

3～6年：算数のはじめの5分間を各グループごと毎回実施

- 読み書きの習熟

全学年週2回：読書，漢字，ことばの意味調べなど

- 学級の実態に応じたスキル

3～6年：週2回 スピーチ，コミュニケーション能力の育成など

(3) 習熟度別グループ指導

- 名称を「算数グループ別指導」と変更し，3年生以上の学年において実施する。
- 習熟度別グループ編成とする。13年度2月の学力テスト，日常の算数の学習状況などから前担任が総合的に判断し，3月中に児童・保護者に連絡をする。
- 学年を5グループ（5年生は6グループ）に分け，担任に加配教員2名を加えて指導にあたる。
- グループと指導者を基本的には固定する。ただし1年間を 期（4・7月）， 期（8・12月）， 期（1・3月）に分け期間が移るときに教師の判断でグループ移動を可能にする。
- 担当グループは1年間固定とし，児童の実態・変容を継続的にとらえ指導に役立てる。

(4) 特殊学級との交流

- ・グループの中での指導が難しい児童，より個別指導の必要な児童においては，保護者の承諾を得た上で，算数と国語の時間のみ特殊学級に通級させ，個別の計画に基づくきめ細かな指導を受けられるようにする。

(5) 基礎・基本の手引き書作成

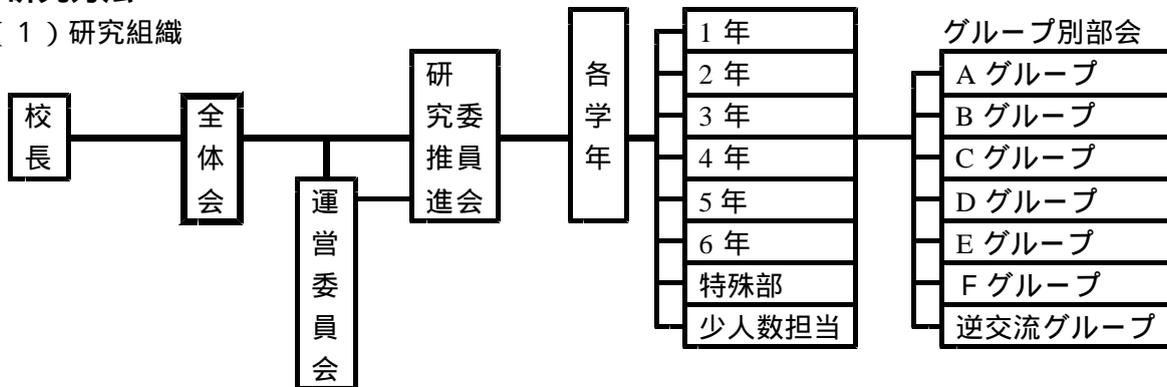
- ・国語，算数についてどの児童にも確実に習得させたい内容を学年別に作成する。

(6) 評価の工夫

- ・前年度の学力検査の分析を行い，指導の方向性を探る。また，個々の児童のテスト結果をデータベース化し継続的に児童の習得状況・変容を捉えられるようにする。
- ・「算数のあゆみ」を年3回通知する。長期休業前に配布し家庭の協力を得られるようにする。
- ・児童の自己評価や相互評価を取り入れながら，自己の学習を振り返らせ，以後の学習活動に見通しを持って取り組めるようにする。

7. 研究方法

(1) 研究組織



必要に応じて特別部会や学年部，縦割り等に組み替えを行う。

<グループ別部会>

(A) 習熟度5グループ(3・4・6年)

学年	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
1年			佐藤千	鈴木・志賀	黒須・奥山
2年		加藤裕		石堂・猪股	櫻田
3年	薄井	藤田	大山		
4年	関	小野	八巻		
5年	五十嵐	後藤	金子・清野		
6年	工藤	横橋	栗原		
特殊	高悠	成瀬		植西	森・菅原
少人数				小山(3年はE)	安達(3年はD)
その他	三塚				

(B) 習熟度6グループ(5年)

学年	Fグループ	Eグループ	Dグループ	Cグループ	Bグループ	Aグループ	交流グループ
1年			佐藤千	鈴木	志賀・奥山	黒須	特殊教育部
2年		加藤裕		石堂	猪股	櫻田	
3年	薄井	藤田	大山				菅原 森 植西 高悠 成瀬
4年	関	小野		八巻			
5年	五十嵐	後藤	金子	清野			
6年	工藤	横橋	栗原		小山		
少人数						安達	
その他				加藤恵	(平山)	三塚	

(2) 研究の進め方

学年ごとの取り組みを基本とする。

担当するグループごと縦割りの特別部会を設置し、グループ指導に関する情報交換、指導法などについて研究を深める。

提案授業，研究全体会以外にも，それぞれの取り組みを積極的に公開し，お互いに研修を深めるようにする。

## 8 . 校内研究年間スケジュール

	内 容
4月	研究計画立案 ・第1回研究推進委員会（研究の方向性） ・職員会議（校内共同研究計画について共通理解） ・実態調査（児童の意識調査・13年度標準学力検査の分析） <b>授業実践</b>
5月	・第2回研究推進委員会（研究主題，仮説等の修正，全体会の計画） <b>研究全体会</b> （学年研究の取り組み状況報告，指導課訪問に向けて） （スキルタイム，グループ指導の情報交換）
6月	<b>基礎・基本の手引き書完成</b> 6 / 7（提案授業1）・・・4年生 ・第3回研究推進委員会 <b>研究全体会</b> ・指導案作成 ・指導課訪問 6 / 27（提案授業2）・・・5年生
7月	・第4回研究推進委員会 <b>算数のあゆみ検討</b> ・算数のあゆみ発行（第1回）
8月	・第5回研究推進委員会
9月	・第6回研究推進委員会 <b>研究全体会</b> ・グループ指導に関する問題点の洗い出し，方向の修正
10月	
11月	・第7回研究推進委員会
12月	・第8回研究推進委員会 （提案授業3）・・・1年生 ・新観点別到達度学力検査実施 ・算数のあゆみ発行（第2回）
1月	・研究のまとめ ・第9回研究推進委員会 ・次年度の方向性を検討 <b>研究全体会（今年度のまとめ，報告会）</b>
2月	・第10回研究推進委員会（次年度の方向性） <b>研究全体会（次年度の方向性について）</b> ・算数のあゆみ発行（第3回）